

## 大隅半島の動物

鹿児島県立博物館に収蔵されている脊椎動物の標本は、1,857点にのぼります。蔵出し企画展「大隅半島」(令和6年9月28日～11月24日)では、この中から大隅半島に関連する動物標本8点を出展し、その特徴を紹介しています。今回は、その中から“推しの3点”を取りあげ、紹介していきます。

### オオスミサンショウウオ



「オオスミ」の名を冠するサンショウウオで、もちろん、この地域の固有種です。日本で最も南に分布する流水性のサンショウウオで、肝属川以南の肝属山地(国見岳～稲尾岳)の間を流れる川の源流域付近に生息しています。生息域にある溪流では、比較的簡単に幼生や幼体を観察することができますが、写真にある体長10cmを超える成体を目撃することはまれです。種の保存法の国内希少野生動植物種に指定されています。

### サンバ



代表的な里山の猛禽類で、夏は九州から本州の森で繁殖し、冬は南西諸島以南で越冬する渡り鳥です。大隅半島は、渡りのルート上にあり、秋(9月下旬から10月上旬)に大きな群れで移動する様子を見ることができます。トビについて多いタカといわれていましたが、渡りの中継地における通過個体数の調査から、日本におけるサンバの個体数が急速に減少していると考えられており、環境省レッドリストでは絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。

### コアジサシ



世界中に広く分布しているアジサシで、日本に分布するものは、オーストラリアやニュージーランド周辺で越冬し、日本に繁殖のため飛来することが知られています。大隅半島では、4月初旬に志布志湾岸の砂浜に飛来し、5～8月にかけて、繁殖活動をおこないます。

自然界で営巣できる場所が減っていることなどの理由から世界中でその数を急速に減らしており、本種も環境省レッドリストにおいて絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。志布志湾岸の砂浜においても、かつてのように集団での営巣を観察できなくなっており、鹿児島県では、絶滅危惧種Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)として分類しています。

現在、日本各地でコアジサシの繁殖保護活動がおこなわれており、志布志湾に面する横瀬海岸(大崎町)において、有志による活動が進行中です。その詳細を企画展で紹介していますので、是非ご覧ください。